子どもの観点からの育児体験の提示を

あるメル友から、この夏に発刊された自閉症の我が子の育児を４コマ漫画で描いた母親の本をいただき、先ほど読み終えた。

４コマ漫画で構成されているだけに、子どもと家族の様子が、微笑ましく描かれている。また、このユーモアの背景にご家族の苦悩も垣間見えるだけに、一概に笑ってばかりで読めないことも事実……。

もちろん、お子さんはご家族の愛に包まれて育っていることは十分に理解できるし、母親のそれなりの工夫も読み取れるが、あくまで家族側の視点から描いたものが殆ど。４コマ漫画だけに限界もあろうが、本人の行動変容へのための工夫に触れていることが少ないのが、残念。読者に「自閉症の子どもって、こんなに大変なんだ！」という印象だけを与えかねないのでないかと心配にさえなった。

それだけに、先に「ありのままの子育て（バックナンバー書籍等読後感関係Ｐ 2004. 8.29.『母親というより、正に教育実践家！』参照）」等の母親の本を読み、お話しもしたせいか、私には、やはり子どもの観点からの種々の工夫に悪戦苦闘し、その実践記録を纏めた、この著者の母親は「やはり、凄い！」と改めて感じ入った。

例えば、絵カードの朝顔と「あさがお」の文字のマッチングができても、また「あさがお」と文字で書けても、「朝顔」を本当に解ってもらうために、たくさんの朝顔を植え、育てる体験を共に実践。また、「赤」の色カードと「あか」の文字カードがマッチングできても、生活の中で「赤」を理解してもらうために、信号の赤で止まることを、何年もかかって道路で実践。単に知識で終わるのでなく、生活で活用できる知恵になるように、数々の実践記録。

自閉症と云われる子どもについては、最近は支援制度（バックナンバー公的機関等公表資料紹介関係Ｐ「発達障害者基本法要綱案 」参照）等もどんどん充実しつつある時であり、子育ての経験から、自閉症児の行動変容への具体的ヒントは多々あると思う。

それだけに、母親たちのこうした育児記録には期待するところが多いので、周りのための制度に終わらないように、子どもの側からの観点の育児経験からの提示がどんどん出てくることを切に願う。

（2004 年 10 月 19 日　記）